

SAPIENTIA No. 27

発行:サピエンチア会(英知大学・聖トマス大学同窓会)

発行責任者/藤本滝三 編集/サピエンチア会 2016年10月



文学部イスパニア文学科
1973年卒

サピエンチア会
会長 藤本 滝三

会長挨拶

深秋の候、皆様におかれましては、ますますご健勝の事とお慶び申し上げます。

平素は同窓会活動にご賛同、ご協力を賜り誠に有り難うございます。

大学が解散されて早1年が経とうとしています。昨年の9月までは本当に目まぐるしい毎日でした。大学、放送局、裁判所、市役所、公民館へとあらゆるところへ出向き、存続の為多くの方々に助力添えいただきました。

そんな事を思い出しながら今、校門の前に立っています。尼崎市の所有になってしまった建物ですが、私にとっては昔のままの学び舎にしか見えません。昨年この建物の中に同窓会室を維持し、そして今年は英知大学・聖トマス大学の記念碑を旧チャペルの横に建立し、11月3日の第2回サピエンチアファミリーフェスティバルのオープニングイベントとして除幕式を開催致します。我々の学び舎の中にこのような記念碑を残せた事に同窓会役員として少し肩の荷を下ろせたように感じます。この除幕式をもって一区切りとし、新しいスタートをしたいと思います。

来年の春には新しく尼崎市の看護学校の学生さん達が集まってきます。その学生さんたちの笑顔、笑い声が再びこの学び舎に響き渡ります。やはり笑顔と歓声に包まれなければ学校ではありません。募集停止が決まってから徐々に学生さんの数が減り、最後の卒業式は、たった1人でした。あのような寂しい思いはもうごめんです。我々の心の奥に封印された学び舎から成長していける看護学生さん達を温かい目で見守って行きたいと思っています。

そして、この夏に尼崎市が我々の学び舎と百合学院を利用して市民にサマーセミナーを開講していました。私も参加をして懐かしい教室で授業を受けて来ました。2日間で300講座という大変大掛かりなイベントでした。この学び舎の卒業生としては、こういうイベントを我々が主催して市民の皆さんに『英知大サマーセミナー』と名を打って生涯学習的な講座を開催する事が出来れば、市民の皆様にも、卒業生の皆様にも参加をしていただけるのではないかと考えたりもしています。来年に向けて何か希望を残してくれたサマーセミナーでした。

大学が閉校になってからの同窓会のFaceBookの書き込みが格段に増えました。無くなってしまった物への郷愁だと思います。その郷愁を郷愁だけで終わらせないように皆さんのお力をお借りして今一度、我々の学び舎に卒業生が集える機会を作りたいと考えております(年に1回でも2回でも)。どうぞ皆様のご協力をお願い致します。

11月3日(祝)はホームカミングデーです

今年の目玉は母校の記念碑除幕式(4ページ)と卒業論文の返却(3ページ)です。

例年通り屋台も出ます。

ライブコンサート(4ページ)は例年に増して豪華な顔ぶれ!

今年は総会形式の会議は行いません。活動報告・決算報告等はホームページに掲載しております。

サピエンチア会へのご連絡は
下記の方法でお願い致します

<http://www.sapientakai.com>

<http://facebook.com/sapientakai>

Email: jimukyoku@sapientakai.com

最悪の中の最善？

松本 信愛



大学は昨年閉校となり、学校法人「英知学院」は解散しました。誠に残念なことでありましたが、いまさら過去のことを言っても始まりません。そこで、次の関心事となると、その後、建物やいろいろなことがどうなるのかということになります。

まず、卒業生として気になるのが、種々の証明書の発行がどうなるのかということでしょう。この点に関しては、幸い、隣の学校法人「百合学院」が引き受けてくださったので、最も良いところに引き受けていただけたと安心しています。

次に、大学の跡がどうなるのかということが当然気になります。法人が解散するまでに、グラウンドの南側が売却され、住宅が建っていましたが、解散時の土地建物は、体育館へ行く道の東側すべて（体育館を含む）を、百合学院を経営している「大阪聖ヨゼフ宣教修道女会」（以下「聖ヨゼフ会」）が手に入れて下さり、残りを「尼崎市」が手に入れてくださいました。下手をすると、大学のあった場所が見たくもないものにも変わる可能性もあったと思われますが、この両者なら、あまり奇異なものにはしないでしょうという安心感がありました。

まず、聖ヨゼフ会では、以前のセミナーハウスを「修道院」として、現在5人のシスターが住んでおられると伺っています。その土地も、将来は何か役に立てられるでしょうが、修道会と百合学院がすることなので、特に心配はしていません。今年の11月3日の「サピエンチア・ファミリー・フェスティバル」の会場として、（以前の）コロクトリウムの建物を使わせていただけるのも、ありがたいことです。

次に、尼崎市も、まず「図書館」はそのまま市民のための図書館として使用していますので、これもよかったと思っています。さらに、「サピエンチア会」（同窓会）とうまく付き合って下さり、これもありがたいことです。同窓会の事務室として場所を提供してくださっていますし、今年の11月3日の「追悼ミサ」のために「旧チャペル」を使用させていただきます。さらに、今年は「大学記念碑」をチャペルの横に設置することを認めていただいたのもありがたいことと思っています。

すでに現在、以前の学生会館1階が「引きこもり学生の支援センター」として、サピエンチアタワーは「教育総合センター」として稼働しており、さらに、来春には看護学校を誘致するという事なので、大学の跡地の利用としては非常に良い方向だと思います。

以上のように見ていくと、大学の閉校は「最悪」の事態でしたが、その後の過程は、その中で考えることのできる「最善」に近いものではないかと考えている今日この頃です…

各種証明書発行についてのお知らせ

昨年（2015年9月末）学校法人 英知学院は解散を致しました。その後、皆様の学籍簿及びその他証明書に付きましては学校法人百合学院が発行業務を行うこととなっています。各種証明書申請につきましては、下記をご参照下さい。

各種証明書の申請方法

学校法人 百合学院 ホームページより：

<http://yuri-gakuin.ac.jp/>

『英知大学・聖トマス大学各種証明書発行』のページへ

→各種証明書発行ページより、申請書をダウンロード

→申請書に必要事項を記載し、

- ①身分証明書のコピー
- ②郵便小為替
- ③返信用封筒
- ④返信用切手を同封の上、学校法人 百合学院宛に郵送でお申し込み下さい。

郵送先：学校法人 百合学院 法人事務局宛
〒661-8530 兵庫県尼崎市若王寺2丁目18番2号
電話番号： 06-6492-4853 （法人事務局）

<留意事項>

- * 個人情報の関係から、各種証明書の申請は必ず郵送にて行って下さい。
- * 各種証明書を申請される際、必ず上記ホームページにて必要事項等の詳細をご確認頂ますようお願い致します。
- * 各種証明書の発行には 申請書到着後7営業日頂いておりますので、余裕を持って申請下さい。

初代、二代目 校旗発見

今年6月に同窓会室に行ったところ、テーブルの上に初代、2代目の校旗が置いてありました。

どなたかが発見され、同窓会室に届けて頂いたと思われます。

サピエンチア会のFacebookにアップしたのでご存知の方も多いと存じます。フェスティバルでは初代のハトがオリーブを加えている三角のデザイン校旗と2代目の丸いデザイン校旗）を展示いたします。ぜひ実物を見に来てください。

初代校旗



二代目校旗



「同窓会への寄付金のお願について」

会員の皆さまには、日頃から同窓会活動に厚いご支援とご協力をいただき役員一同、心より感謝申し上げます。

同窓会の主な活動資金であった新入会員の入会金は、2009年の新入生を最後に絶たれており、その後は僅かな繰越金と皆様の寄付金で何とか活動を続けている状態です。しかし、今回は記念碑の建立という重要な事業があり、相当の出費を余儀なくされました。そして一年でも長く継続して活動していくために、今年はこの会報の郵送を取り止めるという決断を下さなければならなくなり、ハガキのみのご案内となりました。このように同窓会の運営は大変厳しい状況でございます。来年も11月3日に尼崎市、聖ヨゼフ修道会のご協力のもと「サピエンチアファミリーフェスティバル」を開催したいと願っております。その為にも、どうか現状をご理解いただき、懐の許す限りのご寄付で結構ですのでよろしくお願いいたします。



00		払 込 取																		
口座記号										口座番号										金額
0 0 9 6 0 7										2 0 8 7 6 9										
加入者名										聖トマス大学同窓会										料金
※																				

※残念ながら、前述の通り会報の郵送を取り止めた為に、ご寄付の振込用紙もお送りすることができません。

郵便局で右記サンプルのようにご記入いただき、お振込みお願い致します。

00		払 込 取										振込票								
口座記号										口座番号										金額
0 0 9 6 0 7										2 0 8 7 6 9										
加入者名										聖トマス大学同窓会										料金
※																				

住所も必ずご記入ください

1975年西文科卒業
山田太郎

1975年西文科卒業
山田太郎

第1回サピエンチアファミリーフェスティバル

応援団演舞披露 所感



昨年11月3日ホームカミングデー開催にあたり、我々英知大学応援団に20数年振りの学歌演舞・大団旗披露と云う貴重な場を頂き、誠に有難うございました。

元々は、我々応援団にとって思い入れの多い団旗や太鼓等が閉学後のクラブハウス内に封印されてしまい、二度と拝めないと諦めかけておりました。ところが、とある縁から泉先輩を通じて藤本会長のご尽力により、また団の宝をこの目にすることができ、まして団旗を上げて演舞

できるなど、夢のような出来事でありました。

ぶっつけ本番で当日参集した応援団OB有志は、学ランに袖を通しただけで懐かしさに浸り、団旗を上げ整列しただけで当時にタイムトリップしておりました。ご覧になられた方々もさぞ懐かしく感じられたかと思いますが、ご年配の大先輩や教職員に見守られながらの晴れ舞台は、心地好い緊張感に包まれ、演舞した我々にとってもまた感無量でした。

やはり英知大学ゆかりの地に響く声、太鼓の音は格別と感じたのは私だけでしょうか？

森山和徳



「卒業論文の返却について」

同窓会事務局では、幸いにも残っていた卒業論文の整理を、今年8月19日（金）1日掛けて年度別に行いました。

1968年から2007年までの文学部英文学科・文学部英語英文学科の論文がほとんどですがイスパニア文学部の論文も含め約1000部が保管されています。

11月3日（祝）12:00～15:00にコロクトリウムで希望者に返却致しますので『青春の思い出の品』として是非、引取にお越しください。保管スペースに限りがありますので、返却は当日限りでその後は廃棄処分となります。

卒業生が約10,000名その内の1,000名分の卒論ですから有ればラッキーくらいのお気持ちでお越しください。

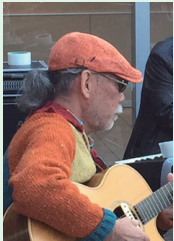
1977年西文卒 村島 裕男

尚、ご自宅へお送りしましたハガキでは「同窓会室前」とご案内しておりましたが、コロクトリウムに変更になりましたのでご注意ください。



サピエンチアファミリーフェスティバル

今年も尼崎市、大阪聖ヨゼフ宣教修道会のご高配を賜り、『サピエンチアフェスティバル』を母校跡地にて開催できることになりました。
卒業生のアーティストがボランティア出演！ 加えて園田苑 山口真央さんによる二胡演奏、模擬店も多数出店いたします。お誘いあわせの上、奮ってご参加下さい。



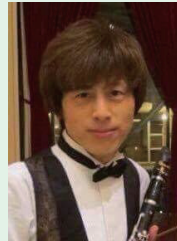
平山修三



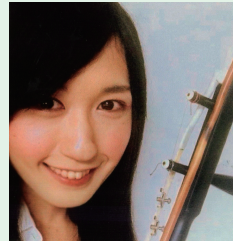
大上留利子



藤原博



鈴木龍仁



山口 真央



Double Joker
堀本圭祐・泉慎磨



扇敏子クアルテット

PROGRAM

- 10:00 ~ 10:40 卒業生・元教職員追悼ミサ (旧チャペル)
10:50 ~ 11:40 英知大学・聖トマス大学記念碑除幕式 (旧チャペル横)
フルート演奏 藤原博 (旧チャペル)
12:00 ~ 12:30 応援団・応援委員会 OB による演舞 (コロクトリウム)

ライブ演奏 (コロクトリウム)

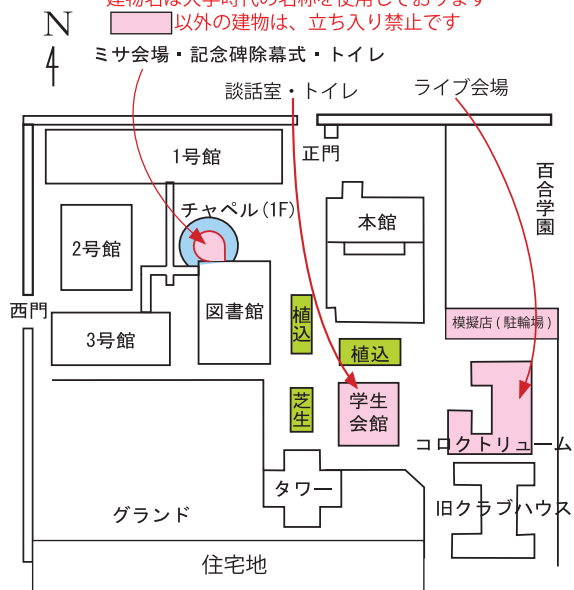
- 12:30 ~ 13:00 フルート・クラリネット デュオ演奏 藤原博&鈴木龍仁
13:00 ~ 13:40 二胡演奏 山口真央 (園田苑)
13:40 ~ 14:30 ジャズセッション 扇敏子とクアルテット
14:30 ~ 15:00 ラップダンス Double Joker 堀本圭祐・泉慎磨
15:00 ~ 16:00 ギターライブ 平山修三
ゴスペル 大上留利子とその仲間達

屋台 (模擬店) (コロクトリウム)

ラーメン、たこ焼き、焼きそば、スペイン風オムレツ、ぜんざい、フランクフルト
たこせん、ドリンク (ソフトドリンク&ビールワイン等アルコール類)

サピエンチアファミリーフェスティバル会場

建物名は大学時代の名称を使用しております
以外の建物は、立ち入り禁止です



我母校の記念碑除幕式



母校記念碑

尼崎市のご協力のもと、旧チャペル (現尼崎市施設内) 横に我が母校の記念碑を建立することができました。

11月3日のサピエンチアファミリーフェスティバル当日、ミサの後、皆様にお披露目いたします。大学はなくなりましたが、我々の想い出を刻んだ碑が記念として残せることは、たいへん喜ばしいことです。是非皆様と一緒に祝いましょう！

編集後記

「この SAPIENTIA No. 27」は、例年のように卒業生の皆様に郵送でお届けすることができず、残念な思いの中で作成しております。郵送でお届けできなくなったのは、大学が閉校となり、柱となる収入源も無くなり、寄付金のみになった為です。一時は会報の廃刊も考えておりました。しかし昨年の会報「No. 26」を読み直してみたところ、編集後記で下記のようなことを記述しておりました。

今後は、この若王寺の地においてカトリック精神に基づいた学びのユニークな大学があったこと、そしてその精神が地域に根ざし、受け継がれていく、そんな姿を卒業生にお届けできればいいかと考えております。そして、来年もこの園田、若王寺の地で卒業生が集まれることを願っております。

今回は、ホームページ上での掲載となりましたが、「同窓会の火を消すまい！」この言葉を胸に刻んで「SAPIENTIA No. 27」を作成いたしました。
1978年西文卒 篠原一夫